

第1回 教職の魅力創造プラットフォーム会議 議事録

日時：令和7年7月31日（木）13:30～14:40

場所：山形大学基盤教育1号館1F会議室

出席者

出口 翔	山形大学副学長（教育担当理事）
中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
吉田 誠	山形大学 地域教育文化学部 教授
石垣 和恵	山形大学 地域教育文化学部 教授
江間 史明	山形大学 大学院教育実践研究科 教職実践専攻長
森田 智幸	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授
叶内 有希絵	山形県教育局 高校教育課 指導主事
福井 恵美	山形県立山形西高等学校 教諭
原田 朋奈	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 4年
早坂 凜都	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 3年
半田 宗汰郎	山形県立山形東高等学校 2年
高嶋 香凜	山形県立山形西高等学校 2年
樋渡 美千代	山形市立第十小学校 校長
山科 勝	山形県立小国高等学校 校長
井上 敦夫	山形大学 大学院教育実践研究科 准教授

議事に先立ち、出口副学長より挨拶として地域教育文化学部が教育学部に改組すること、教育学部に繋がる3つの取り組みについて話題提供があった。

第一に、地域とのつながりについて。地方大学の将来に関する議論では、2040年には入学定員の充足率が全国平均で72%にまで低下するとされている。地域によっては50%程度にとどまる見込みである。山形はそれより高い数値を示しているが、こうした状況下において、地域で活躍する人材の一つである教員を、地域とのつながりや、地域を超えた専門家のネットワークの中でしっかりと育てていくことが重要である。教員にはそのような意識を持ってほしいという願いが示された。

第二に、質の高い教育について。入学した学生が学びに満足できるかどうかが極めて重要である。それが教職の魅力創造にもつながると考えられる。本日の会議で出された意見も、ぜひ今後の教育活動に活かしてほしい。教員就職率の数値も大切だが、教員養成の質を大事にしたいという考えが示された。

第三に、教職志望の学生の確保について。山形県内の高校卒業生は約4,000名、県内の大学への進学者は約1,000名である。そのうち山形大学への入学者は412名、本学部への入学者は86名である。県内の高校生から選ばれる大学になっていくことを目指したいという意向が示された。

次に会議では、様々な立場からの意見交換を行っていただくことで好循環を生み出し、教職の魅力を高めていきたい旨、発言があった。また協議事項は、「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

議 題

I 協議事項

1 教職の魅力創造プロジェクトの目的

森田委員から、教員不足という教職が抱える課題について説明がなされ、資料に基づき本プロジェクトの目的とこれまでの活動について説明がなされた。協議事項 2 における各プロジェクトの進捗状況の説明の後、あわせて意見交換を行うこととなった。

2 教職の魅力創造プロジェクト 2025 の進捗状況

叶内委員から小学校教員体験セミナーについて、江間委員から聞き書きプロジェクトについて、森田委員から学びのフォーラムについてそれぞれ資料に基づいて説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

① 小学校教員体験セミナーについて

- ・ 令和 6 年度の小学校教員体験セミナーは 12 校を対象とし、157 名が参加した。これは参加を働きかけてくれる先生方の協力があってこそだと感じる。今年度は進学指導重点校 12 校 + 進学指導重点校である新庄北高校と来年度合併予定の新庄南高校の 13 校を対象として 128 名の高校生が参加予定である。今後も進学指導重点校 12 校を対象に実施したい。受け入れ校の安定的な確保、そして運営について県内全域で安定的に事業を継続するために、山形大学の教員や学生とこれからも連携して取り組んでいきたい。

(関連意見)

- ◆ 今年度は新庄北高校と新庄南高校の受け入れ先は新庄市立日新小学校となっている。以前は他地区の方も附属小に来ていただいていたが、今後はどのように進める予定か伺いたい。
- ◆ 数年はこの形で進めたい。他地区への展開は難しいところでもある。新庄については高校の魅力化という点でも課題を抱えているところであり、新庄志誠館高校になることもあるため、単独で実施したい。その他については、受け入れがスムーズであったことや参加した高校生から附属小の様子を見られてよかったですとの意見が挙げられたことから、引き続き附属小でお願いしたい。

- ・ 若い先生方になぜ教員になったかを聞くと、学生時代にボランティア活動や実習等で人とつながったことがきっかけであったと答える人がいる。このセミナーも令和 2 年から開始しており、初めのころに参加した学生が教員としてのキャリアを始める時期にあたる。過去に参加した方たちの追跡調査を行い、どんな点で教員への道をあきらめてしまったり、逆に励まされた経験などはないか伺ってみてはどうか。

(関連意見)

- ◆ (本セミナーに参加して、地域教育文化学部に進学した学生から) 本セミナーに参加し、小学校の教員に興味を持った。その後に参加した学びのフォーラムで、現職の先生方に話を聞くことができ、楽しそうと感じたことが教員を目指し、本学部に入学する決め手になった。

- ・ 経済学部と教育学部で進路を迷っていた友人が本セミナーのチラシを見た際に人数に限りがあると記載があったため、自分は教育学部専願ではないからと参加をあきらめてしまった。本セミナーは高校生の段階で教員のリアルな魅力を

知ることができる機会である。教育学部専願の人以外でも気軽に参加しやすいようにしていただけだと、より多くの高校生が参加できると感じる。

(関連意見)

- ❖ 高校生の参加人数が多くなると、活動に参加する大学生の確保も必要となるため、今の状況では大きく人数を増やすことは難しい。だが、セミナー開始当初に参加し、（他大学も含め）教育学部等に進学した方たちが今後大学生側で参加してくれることがあれば、参加者の繋がりも活かすことができ且つ高校生の受け入れ人数も増やせるかもしれない。ただ山形大学からは、他大学に進学した方へアプローチする手段がないので、何か呼びかける手段があればと思う。
- ・ 事前オリエンテーションはあるが、いきなり小学生の前に立って先生役をするというのはプレッシャーに感じる人もいるため、もう少しハードルを下げてほしい。

(関連意見)

- ❖ 小学校教員体験セミナーは小学生の前で先生役を行い授業をするものではなく、小学校の授業に参加し、困っている子がいればその子に声をかけてあげるような、小学生と交流をするセミナーである。実際は中学や高校の教員を目指す人で参加している人もいるため、セミナーの名前や実施している内容、どのような人たちが参加しているのか等の伝え方について検討してみても良いかもしれない。

② 聞き書きプロジェクトについて

- ・ 聞き書き作品を読んで興味を持った人が、作成者や恩師と双方向でやり取りできるSNSやプラットフォームなどの仕組みがあればより良いという意見が昨年の本会議で上がっていたがどの様な取り組みが良いと思うか特に学生の皆さんからご意見を伺いたい。

(関連意見)

- ❖ SNSを利用し体験談等を発信するのであれば高校生がよく利用していると思われるInstagramで、教職の魅力創造プロジェクトの公式アカウントを作成し、そこから情報発信するのが良いと思う。
- ❖ 他のプロジェクトでもSNSを活用したいとなった際はInstagramがいいのではないかと話が出ていたので、高校生へSNSでアプローチをしたいとなった際はInstagramがいいのかもしれない。

③ 学びのフォーラムについて

- ・ 学びのフォーラムは以前他キャンパスでも同時開催されていたが、現在は小白川キャンパスでのみの開催となっている。自身も高校生の際に近場で開催があればよいのだと感じていた。他地区の高校生が参加しやすいように他キャンパスでの開催を検討してもらえると良いと思う。

(関連意見)

- ❖ 2年前に米沢キャンパスと鶴岡キャンパスで開催したことがあり、その際は天候の影響等もあったが、教員や派遣する大学生などの人的資源的にも分散

させて開催した場合より、小白川キャンパスのみで3回開催した時のほうが手ごたえを感じていたため、今はこの形で開催している。他地区でも展開してほしいというのはとてもうれしい要望である。

- ◆ オンラインでも参加できるハイブリット開催での運用は行っており、そちらでの参加者もいる。コロナ禍でのツールの発展もあり、現在はオンライン参加でも非常にストレスなく参加できるようになっていいると感じる。まずは、オンラインでの参加を検討してみてほしい。
- ◆ オンライン参加だと緊張感もあるため、初対面の方同士でのコミュニケーションは、対面参加とはまた違う難しさもあるため、県内2か所からでもまた、他地区での開催も視野に入れてみてほしい。

・ 学びのフォーラムに教え子の娘が参加し、面白さを感じて高校3年生で今年も参加したいと言っていると聞いた。参加をきっかけにこの学びを体験したいと地域教育文化学部志望となったという。先にあげた、他地区での開催について、このような体験をより多くの高校生に体験してほしいため、対面開催の他地区への展開を広げてほしい。

(関連意見)

- ◆ 学びのフォーラム以外にも大学へ高校生が訪れることができるシステムはいくつもある。また、実際に高校生が一人や複数人で、問い合わせの上研究室へ話を聞きに来ることもある。学びのフォーラムなどで来校した際に声掛けをするなどしてみたうえで、もし高校生側に関心があればそのような対応をとることは可能である。

・ 高校生目線では学びのフォーラムのように現職の先生と関わる機会はどのように感じるか伺いたい。

(関連意見)

- ◆ 緊張はすると思うが、その分実際に現職の先生と話すことで得られるものはあると思う。そのような機会はとても貴重なものであるので、印象にも残るし、進路を考える上でよい経験になると感じる。
- ◆ 実際に先生方とかかわることで、自分がどんな先生になりたいのか明確な先生像を持つことができると思う。そのようないい刺激を与えられた状態で学校生活を過ごすことで、教師に対する考え方も変わってくると思う。また、明確な目標や理想を持って大学へ入学できることは良いことだと感じる。

・ 学びのフォーラムへ参加したことがあるが、その際この取り組みの世代を超えて同じテーマについて対話ができることが大きな意義であると感じた。様々な世代の方がフラットに意見交換できる場があるというのが大事なことであると思う。「地域に開かれた学校」を高校で実現することはなかなか難しいのでこれからも大学にこのような機会を開催してほしいし、今年も参加したいと思う。

・ 教員を志すには、何かしらのきっかけが必要だと感じる。学びのフォーラムでは教員や教員を目指す大学生たちと高校生が触れ合うことができる場であり、高校生たちの決断を後押しするいい機会であると思う。

・ 指導観や授業観が変わってきた中で、高校生や若い先生方、長く先生をやられている方と様々な世代でそれを共有できる良い機会であると感じる。

3 今年度の今後の予定

森田委員から、各プロジェクトの実施時期は協議事項で説明の通りで、本会議の次回は令和7年12月21日（日）11:00より開催予定である旨発言があり、確認がなされた。

4 その他

特になし。

